

令和7年度 浜松市立芳川幼稚園評価 報告

【園目標】 自分が大好き みんなも大好き

1 評価方法

(1) アンケート実施

○保護者・職員共通 「幼稚園アンケート」

職員…正規職員5名、8月（前期）と12月（後期）の実施。

保護者…全家庭（21戸）対象、12月の実施。

○職員 「園経営・自己振り返りアンケート」

職員…正規職員（5名）対象、7月と12月の実施

(2) 園職員によるアンケート集計と話し合い

集計されたアンケートを職員で考察し、成果や課題、改善案を話し合う。

(3) 『夢をはぐくむ園づくり推進協議会』での協議

夢をはぐくむ園づくり推進協議会委員、PTA会長、副会長、教職員が参加し、本年度の園経営報告、また、次年度の教育課程について協議・検討を行う。

2 公表について

(1) 令和7年度幼稚園評価の公表方法

以下の方法で、幼稚園評価を公表する。

- ・保護者への紙面配付と全体会での報告
- ・芳川幼稚園公式ホームページへの掲載

（※文字色は全て黒に統一、子供の写真は個人情報保護のため削除）

3 「幼稚園アンケート」結果

(1) 保護者・教職員の設問比較

以下の項目について、あてはまる数字に一つだけ○をつけてください。

4…そう思う 3…ややそう思う 2…あまり思わない 1…そう思わない 0…わからない

	設 問		教職員		保護者	保護者 昨年
			前期	後期		
子供は	1	幼稚園に通うことを楽しみにしている。	3.6	3.6	3.9	3.9
	2	生き生きと幼稚園生活を送っている。	3.4	3.8	4.0	3.9
	3	先生や友達と遊ぶことを楽しいと感じている。	3.8	3.8	4.0	3.9
	4	自分のことは自分でしようとしている。	3.2	3.2	3.3	3.4
	5	幼稚園での出来事を話している。			3.7	3.6
幼稚園は	6	教育目標や方針を伝え、保育を進めている。	3.4	3.6	3.9	3.8
	7	遊びを通して学ぶことを大切に、個々に応じた指導をしている。	3.8	4.0	3.9	3.9
	8	協力して子供たちの教育に当たり、組織的に教育活動に取り組んでいる。	3.8	3.6	3.9	3.8
	9	子供たちの自立に向け、発達段階や実態を踏まえた保育に取り組んでいる。	3.4	3.8	3.8	3.9
	10	子供たちに基本的な生活習慣が身に付くよう指導している	3.8	3.8	3.8	3.8
	11	生命を尊重する心や、自然を大切にしたい体験活動を行っている。	4.0	3.8	3.9	3.9
	12	集団生活や社会のルールが身に付くよう指導している。	3.4	3.8	3.8	3.9
	13	子どもの安全・健康管理に対して必要に応じた対応をしている。	3.8	3.8	3.9	3.9
保護者は	14	子育ては楽しい。			3.4	3.6
	15	子供と触れ合う時間を大切にしている。			3.6	3.5
	16	規則正しい生活送ることができるよう心掛けている。			3.7	3.6
	17	あいさつや身の回りの始末など、基本的な生活習慣を身に付けさせている。			3.3	3.4
	18	園と協力して子供の成長を見守っている。			3.8	3.7
	19	園の行事や参観などに参加している。また、楽しいと感じている。			3.9	3.8
連携	20	安心して話したり、気軽に相談したりできる雰囲気づくりに心掛けている。	3.6	3.8	3.9	3.7
	21	必要に応じて、先生と保護者が子供についての情報交換を行っている。(送迎時・電話・手紙など)	3.4	3.8	4.0	3.7

(2) 保護者の自由記述

① 芳川幼稚園の行事や活動などで、子供の成長につながると思われるものがありましたら理由を添えてご記入ください。

- ・運動会や生活発表会で先生の話をよく聞いてその通りに動いてみたり、友達と協力して1つの物を作り上げたりしていくことが成長に繋がっていると思います。
- ・今年度の行事では、どの行事に関してもとても成長を感じることができました。運動会や生活発表会では、練習中に先生から褒めていただいたりもしたそうで、子ども自身も自己肯定感が上がり色々なことに自信を持って挑戦する姿が見られてとても嬉しく思いました。ありがとうございます。
- ・少人数の園では、良くも悪くも「不自由さ」が少ないと伺ったことがあります。みんなが共有するお道具や遊具が十分にあると、順番を待ったり、相談して分け合ったりする機会が自然と減ってしまうため、あえて数を少なくして子どもたちが考える場面をつくっているのだとお聞きしました。本日の園庭開放では、ブランコが2基だけ設置されていました。子どもたちは順番を待ちながら、「かーわって!」「いいよ」「まだだよ」などと声をかけ合い、やり取りをしていました。以前伺ったお話は、きっとこのことだったのだと気づきました。遊びの関わりの中で、自然にコミュニケーションを学んでいく姿に、この取り組みの素晴らしさを改めて感じました。
- ・普段の幼稚園生活の他に、行事やイベントごとがたくさんあって、いろいろな体験をさせてもらえていいなと感じています。これからも今までのように、普段とは違う体験をさせてあげてほしいです。
- ・普段は自分の好き勝手に行動してばかりいる我が子ですが、運動会や生活発表会など保護者方に注目される場では気が引き締まるのか、きちんとすべき事ができているように思います。そういった場面を見ると成長が感じられます。
- ・気のせいかもしれませんが、何となく参観会が少なかったように感じました。以前は祖父母参観もあったように思いました。来てもらえる子とそうでない子の不平等感もあるかもしれませんが、良い行事だと思っていたので、今後検討していただきたいと思えます。
- ・遠足は、親と離れて遠出したり仲間だけで大型バスに乗ったり普段は経験しにくい事をしていただけたので、とてもいい経験だったと思います。また、普段の生活の中で担任の先生が「明日は〇〇をします」と事前に園児に伝えてくれているおかげで、明日は〇〇だから頑張って行かなくちゃと本人のモチベーションも上がっていて、行き渋りが無くスムーズに朝の支度が進むので感謝しています。

- ・運動会の時、リレーの入場スタンバイをする年長さんが、相手チームに向けて「負けないぞ～」と話す声が聞こえてきました。家庭内で「チームになって誰かと勝負する」という場面はほぼなく、集団生活を送る中でできることだと感じました。自然と子供たちからそのような言葉が出てきたのは、リレーで勝負するという形だけではなく、子供たちの気持ちも盛り上がったからだと思います。この気持ちを育ててくれたのは間違いなく、先生方の日々の声かけの積み重ねだと思っているので、全力で子供たちと向き合ってくださいることに、大変感謝しております。
- ・野菜を育てる事は生命の大切さや、植物がどうやって育つのか勉強にもなるし、水遣り等責任感も生まれるので、子供の成長に繋がると思います。

②園の活動において、ご意見や要望、お気づきの点などがありましたら、自由記述で
ご記入ください。

- ・園児減少に伴い、PTA活動の縮小も致し方ないと感じています。その中で今年は「できる人ができることを。できなければ縮小、停止、廃止」という形をとっていること、現状に合っているなどと思います。今後の園児数にもよりますが、今年のような活動の仕方が基盤になってくるだろうと、感じています。今後も、「例年通り」ではなく「今に合ったやり方」といった、時には思い切った決断も視野に入れつつ、皆様に負担なく活動できるものができたら、と思っています。
- ・子ども一人ひとりに、先生方がとても丁寧に関わってくださっていることが随所に感じられます。それぞれの性格や成長に寄り添った対応をしていただけて、本当に素晴らしいと思っています。生活発表会や運動会をはじめ、子どもたちが使う道具の一つひとつにも丁寧な工夫が施されていることが伝わってきます。また我が子の場合、アレルギーへの配慮を日々細やかに行っていたいただいたおかげで、年長の現在まで、一度もリスクを負うことなく安心して園生活を送ることができています。先生方の変わらぬお力添えに、心から感謝しています。
- ・担任の先生はもちろん、それ以外の先生も子供の様子を教えてください、園全体で子供をみてもらっている安心感があります。ありがとうございます。
- ・いつも丁寧に子ども達と接して下さりありがとうございます。良い幼稚園なのに、段々と入園児が減っているようでとても残念に思っています。同じ浜松市の幼稚園でも、預かり保育があつたりなかつたりすることも疑問に思います。もしどの園でも2時以降のお迎えが可能なら、入園児も増えてくるのではと感じます。そもそも幼稚園も保育園も同じにすれば良いのではないのでしょうか。管轄が違うなど利用者に関係のない問題で不便なようでしたら、それは変えるべきだと思いますし、時代に合った運営が必要だと感じます。また毎週年長さんに運動を教えてください村松コーチには、一般的な額の報酬をお支払していただきたいと思います。個人の善意で市の施設の仕事をさせていただくのは本当に申し訳ないです。長々と失礼しました。

4 職員による「園経営・自己評価アンケート」結果

(1) 設問ごとの結果

4…そう思う 3…ややそう思う 2…あまり思わない 1…そう思わない 0…わからない

評 価 内 容	評価	
	前年度	本年度
① 園の教育理念や教育方針を理解し共感している。	3.4	3.8 ↑
② 幼稚園教育要領を理解し、幼児の姿や環境の構成、保育者との関わりなど具体的な事例を思い浮かべることができる。	3.2	3.2
③ 指導計画は、幼児の興味や関心、これまでの生活や予想されるこれからの生活なども考慮し作成している。	3.4	3.4
④ 行事は、幼児の生活上の意義を十分に検討した上で、指導計画に組み入れている。	3.4	3.6 ↑
⑤ 指導計画に基づいて、幼児が主体的に関わりたくなるような安全で清潔感のある環境構成をしている。	3.4	3.6 ↑
⑥ 楽しい雰囲気の中で、安定して遊び込めるように遊具や用具、素材など質・数量を配慮して環境構成をしている。	3.2	3.6 ↑
⑦ 幼児の活動がより豊かになるように幼児の発想を柔軟に取り入れ、活動の展開に応じて環境の再構成をしている。	3.4	3.4
⑧ 幼児の発達や生活を見通し、季節の変化に応じた環境構成をしている。	3.6	3.5 ↓
⑨ 異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成をしている。	3.4	3.5 ↑
⑩ 朝の登園時は、視診を大切にして幼児の体調が悪くないかを確認、出欠確認を行っている。	3.8	3.8
⑪ 体調不良児への適切な処置（検温など）と的確な対応（家庭連絡）をし、事後の確認連絡も行っている。	3.8	3.8
⑫ 園内研修で学んだことを、翌日の保育に活かしている。	3.4	3.4
⑬ 研修会や研究会には自己課題をもって参加し、事前にその内容を確認したり、自分なりの考えをまとめたりしている。	3.4	3.5 ↑
⑭ 自分の保育については自己課題をもって計画と反省を行うと共に、保育のあり方や悩みについて他職員や主任、園長と話し合っている。	3.4	3.6 ↑
⑮ 園の遊具や教材についてその特徴や基本的な使い方を知っている。	3.4	3.4
⑯ 園の遊具や教材についてどんな使い方をするのか、どのような使い方が危険か予測できる。	3.4	3.5 ↑
⑰ 子供を取り巻く様々な状況について、背景・原因・実態はどうであるか興味・関心をもっている。	3.8	3.8
⑱ アレルギー・感染症・支援を要する子等、最近多く見られる問題について興味・関心をもっている。	3.8	3.8
⑲ 幼小連携の意義やあり方について興味・関心をもっている。	3.6	3.7 ↑
⑳ 子供たちの安心・安全に関する危機管理について興味・関心をもっている。	3.8	3.8

(2) 職員により記述回答

<自園の強みに感じていること>

◎個々を尊重した保育

- ・丁寧な個別対応を行っている。子ども達の思いを受け止めながら、保育を進めている。
- ・小規模園として出来ることを職員全体が理解し、各園児の発達段階や特性に合わせて支援や声掛けを行っている。また、個々の保護者に子供の日々の様子はもちろん、成長や課題についても丁寧に伝え、協力体制をとれるようにしている。
- ・職員が連携し、子供一人一人に合った援助をしている。身支度や食事など自分のことを自分で行えるよう支援している。好きな遊びができる環境、異年齢と関わって遊べる環境が整えられている。職員が子供一人一人の良さに目を向けている。

◎保護者との連携

- ・保護者が幼稚園教育を理解してくださっていて、協力して子供を育てることができていると感じる。
- ・運動会、発表会の大きな行事を職員一同協力して行うことができた。保護者も温かい目で見守ってくれ、成長を感じていただけたのではないかと思う。
- ・本年度から教育相談日を設定したが、心配や気になることがある保護者が教育相談を希望していた。

◎教育環境や資源の活用

- ・身近な地域に保育で活用できる公園が豊富にある。定期的な園外散歩や飯田幼稚園との交流保育に生かしている。
- ・外部講師による運動遊びやペアトレ(リズムダンス教室)、飯田幼稚園との交流保育など、小規模園の課題をカバーする活動を多く取り入れている。
- ・近隣に小・中学校がある立地を生かして、地域探索として芳川小児童の園見学を受け入れたり、中学生が保育士としての職業体験を実施したりしている。また園児が津波避難として小学校の4階まで昇る訓練をしたり、年長が小学校1年生の授業を参観する取り組みを行ったりしている。

<遊びを通して「気付く・考える・動く～思考力の芽生え～」子供の育成を目指して、どのようなことを意識して保育し、どのような成果を感じたか>

- ・外遊びで拾った種や環境として用意した木の実を使って遊ぶ中で、マラカス作りをすることになった。たくさん作ると、中に入れるもので音が変わるだけでなく、容器や入れる量によっても音が違うことに気付く姿があった。それを言葉で説明するのは、年少児にとって難しく、「好きな音」「いい音(心地よい音)」と表すことで教師に伝えて来た。何度も試して1番好きな音を決め、友達にも「いい音だね!!」と認めてもらい、みんなで作って遊んだ。試したり、やってみたいと思ったりするには、様々なものに出会い触れる機会が大事だと思い、材料の量を多めにしたり、選べるくらいの種類にしたりすることを心掛けることで、遊びが広がったように感じた。
- ・子供の気付きや疑問はその都度一緒に考えたり、学級全体で共有したりした。他児への刺激となり、興味をもって関わろうとしたり考えたりする姿が増えた。
- ・教師のゆとり、見守りが大切だと感じる。教師が待つ姿勢をもっていることで、子供自身が考えようとする姿が見られた。

- ・子ども自身が考えて、作って遊べる環境作りをし、作りたいものや作り方を自分で考えられるようにした。自分で考えていることや工夫していることを認めたり、やり方が思い浮かぶように選択肢を提示したりした。困ったときには手助けをするが、自分でできたと思えるような方法で援助するようにしてきた。完成すると、自分で考えて作れたことを喜んだ。どれにしようかな、どうやってやろうかな、と問いを巡らすこと、やりたいことを見つけたらそのためにどうしていけばよいか考えやってみることで、思考力の芽生えが育っていくと思う。
- ・虫のことを調べたいと頼みに来た園児に対してすぐに答えを伝えるのではなく、思考の機会を与えるために、「虫の何について調べたいのか」「どんな方法で調べたらいいか」「調べた事を何に使うのか」など、対話をしながら一緒に調べるようにした。初めは戸惑ったり上手くやり取りができなかった園児が、回数を重ねることによって、対話がスムーズになったり、より具体的な疑問をもったりするようになった。思考力は育てていくものだと感じた。

<遊びを通して「気付く・考える・動く」子供の育成を目指して、今後どのようなことを意識して保育していきたいか>

- ・子どもの気付きや疑問は引き続きその都度考えたり共有したりしたい。子どもが考えたり試したりする姿を適切な距離で見守りたい。
- ・子ども達の気付きを大事にし、やってみよう、やってみたいと思えるような環境を作っていきたい。また、初めて出会う環境に弱い部分もあるので、教師と一緒にならばやってみようと思えるような関係性を築いていきたい。
- ・引き続き子供の気づきや考えには共感受容しながら、子供の考えを引き出せるような声掛けを心掛けていきたい。
- ・研修テーマに沿った子供の表れを待つだけでなく、その様な行動を主体的に行うための仕掛けが必要だと思う。園児にとって活動することに必要感や期待感が生まれるように環境や機会を意図的につくっていきたい。
- ・選択できる環境設定。できたことでなく、過程を具体的に認めていく。

<自園の課題に感じていること>

- ・在園児数が減るにあたり、運動会、生活発表会の内容を再構成する必要がある。
- ・園児数の減少に伴い、集団としての経験が不足していたり、年齢に応じた集団遊びに難しさを感じたりする場面がある。(3名) **【改善イ】**
- ・質の高い保育を進めるために、職員がバランスよくインプットとアウトプットができるような環境・機会づくりが必要。現時点ではインプットの機会が少なめだと感じている。他園への公開保育参観や園内外の研修に参加できる環境を整えたい。
- ・保護者同士がかかわるきっかけ作りができるとうよい。

5 幼稚園評価アンケート集計後の全体考察

(1) 全体考察 (◎成果と▲課題)

【幼稚園アンケート（保護者・教職員対象 P. 2～4）より】

成 果

- ◎全般的に保護者から高評価を受けており、園の教育活動に対して御理解・御協力をいただけていると感じ、心より感謝したいと思う。
- ◎「(設問 3)先生や友達と遊ぶことを楽しいと感じている」
保護者・職員共にポイントが高かった。子供自身が人と関わりながら夢中になって遊んでいる姿や会話から現れていたと考える。
- ◎「(設問 7)遊びを通して学ぶことを大切にし、個々に応じた指導をしている」
「(設問 11)生命を尊重する心や自然を大切にしたい体験活動を行っている」
自園の強みと考え、特に重点をおいて教育活動を展開している項目である。園児それぞれの成長を見通し、その子に合った支援や声掛けを行うよう園内研修を行いながら努めてきた。また、近年のデジタル社会を鑑み、幼児期に実体験を積み重ねることがより重要と考え、近隣公園への園外保育や自然に触れる体験活動、講師を招いての運動遊びなどを意図的に取り入れていることが保護者にも伝わっていると感じた。
- ◎「(設問 20)安心して先生と話したり、気軽に相談できる雰囲気づくりに心掛けたりしている」
「(設問 21)必要に応じて、先生と保護者が子供についての情報交換を行っている」
昨年度のアンケート結果から本年度の改善点として挙げていた項目である。主に登降園時に行っている保護者との個々の情報共有や本年度新たに設定した月 1 回程度の『教育相談日』などにより、子供の日々の様子や成長を共有しながら、保護者との意思疎通を図り、協力して教育活動を行うことができたと感じている。

課 題

- ▲「(設問 4)子供は自分のことは自分でしようとしている」
「(設問 14)子育ては楽しい」
「(設問 17)あいさつや身の回りの始末など、基本的な生活習慣を身に付けさせている」
以上の 3 項目はポイントが比較的低い結果となった。
- 今まで家庭保育で親と過ごしてきた年月を経て、初めて集団生活をするのが幼稚園である園児はとても多い。その新たな挑戦の日々の中で、少しずつ自分のことができるようになっていたり、人と関わる力を身に付けたりしていく。よって、まだまだ幼児の段階では、それを「できている」「できていない」と判断するものではなく、周りの大人の働き掛けや繰り返しによって、時間をかけて育まれていくものだろうと思う。教職員として子供それぞれの成長を保育の中で感じ取り、その喜びを子供自身や保護者と共有していきたい。

【園経営・自己評価アンケート(職員対象 P. 5～7)より】

成 果

◎「①園の教育理念や教育方針を理解し共感している」

「⑭自分の保育については自己課題をもって計画と反省を行うと共に、保育のあり方や悩みについて他職員や主任、園長と話し合っている」

昨年度より大きく向上が見られた。教職員が自園の目指す理念やそれに向けての方針を理解するのはもちろん、共感だけでなく改善点があれば皆で論議し、よりよいものに変えていくことが教員の資質として求められる。また、日々の具体的な保育内容についての疑問や課題を相談したり、方向性を共有し合ったりすることは、互いの保育を磨き合うことにつながっていると思う。これらの意識が向上したことは大変喜ばしいことである。

◎「⑩健康管理」「⑪体調不良時の処置と保護者連携」「⑳危機管理に対する興味・関心」

子供の健康・安全に関する設問が引き続き高ポイントを維持している。災害、防犯など避難訓練を繰り返し行っている。保育中、園児が手当てを必要とするけがをした場合、その場の状況や職員対応、また、今後の事故防止対策までを園児降園後の職員打合せで話し合い共有化している。園児の健康・安全は、園経営の根幹となる部分であり保護者からの信頼や安心にもつながるので、引き続き意識を高く保ち、継続努力を行っていく。

課 題

▲「⑧幼児の発達や生活を見通し、季節の変化に応じた環境構成をしている」

前年度と比較して唯一ポイントが下がっている項目であった。アンケートの結果を職員で話し合った際、その原因として「2学期の行事が詰まっていた」という話が出た。季節的にも子供の成長においても大きな行事が行いやすい時期で、結果的に活動が立て込んでしまい、日々の保育の中で職員が環境構成に力を注ぐ余裕がなかったのではないかという結論となった。職員だけでなく子供にとっても、行事(イベント)と日々の生活とのバランスは大切だと考える。

【改善ア】

6 上記の課題に対する改善案とその他の取り組み

【改善ア】：子供がより力を伸ばすための行事運営や年間計画の設定

園が行っている行事は1つ1つ「ねらい」があり、子供たちが力を伸ばす機会となっている。行事のための準備の期間、当日、終わった後の振り返りや関連遊びなどを通して、子供たちの成長を促している。前述したように、それら子供の歩幅に合わせて行うためには日程の余裕も必要である。

よって、それぞれの行事についての「ねらい」、また、子供に付けたい力を明確にするとともに、それを支えるために職員が保育環境を整える余白をもてるよう、行事内容や開催時期の再構成を行う必要がある。令和8年度に向けて、教育課程や年間計画を職員全員で練り合い、子供がより力を伸ばすことができるような年間計画を作成していくこととする。

【改善イ】：集団と個を意識した少人数園としての保育の在り方

今後、より少人数の園になっていくであろう自園として、職員が気に掛けていることが「集団としての体験をどのように維持していくか」である。

今年度も年6回程度、飯田幼稚園との交流を行った。同学年の子供たちが集まり共に活動することは、子供たちにとって普段とは違う楽しさや刺激、学びがあると感じる。次年度は、飯田幼稚園に加えて、他幼稚園も一緒に交流をしていく予定である。その際には、教職員同士の交流も行い、既に小規模園として行っている保育の工夫を学んだり、情報交換をしたりすることも研修の一環として進めていく。

また、通常保育や行事の中で、集団を学年や保育室を固定せずに自由に行き来しながら遊ぶことができる時間を設定したいと考えている。そうすることで自然な異年齢交流が生まれ、集団の人数が学年在籍数に関わらず変化したりすることで、集団の学びが深まっていくと考える。これは、『教職員全員がそれぞれの園児を理解し個に沿った支援を行っている』という自園の強みがあるからこそできるものである。今後もこの良さを生かし継続できるよう教職員間で共通理解を図り、一人一人の個と集団、双方を意識した保育を推進していきたい。

【その他】：引き続き重点をおいて継続していくもの

○体験活動の充実

実際に見る、聞く、匂いを嗅ぐ、触れる、食べるなど、いろいろな体験を通して遊ぶ(学ぶ)機会を意図的にもつ。子供たちが直の経験を積み重ねることによって、今後出会う映像や書籍等の情報と五感を通じた実体験が頭の中でつながるような活動を積極的に取り入れていきたい。

例：ダンゴムシ教室、どろんこ遊び、季節の野菜作り、どんぐり拾い、氷集め
お買い物ごっこ(PTA主催)、生き物の住みか作り、運動遊び、ボッチャ体験 等

○大切にしていきたい季節の行事

伝統文化に関する行事の前には、 「ナスのへたは、ちくちくしているよ」
園児が制作活動をしたりして、行事を迎えるまで気持ちを高めている。当日は多くの子が行事会を楽しんで参加している。

一方、保護者の考え方や信仰によって参加できない園児もいて、難しさもある。その様な場合は、事前に保護者と連絡をとり、どこまで活動できるか、関わることのできるかなど、細かく確認を取りながら、少しでも子供が体験をすることができるよう個々に合わせて進めてきた。

伝統文化に関わる楽しい経験や思い出が成長した後に心の支えとなったり、そのまた次の世代に伝承されるきっかけになったりすることを期待している。

例：七夕会、お月見会、ハロウィン(PTA 主催)、クリスマス会、凧揚げ
こま遊び、豆まき会、ひなまつり会

7 『第2回 夢をはぐくむ園づくり推進協議会』での協議

令和8年2月上旬に夢をはぐくむ園づくり推進協議会委員、PTA会長、副会長、教職員が参加し、本年度の園経営、また次年度の改善策と取り組みについて協議・検討を行った。以下がその内容である。

《本年度の園の教育活動について》

- ・先生たちが子供たちの良いところを具体的に褒めてくれてとても嬉しい。保護者として毎日子供と接しているため、他の人から言われないと気付かない子供の良さを感じられている。
- ・保護者の評価が非常に高く、幼稚園に安心して子供を預けられていること、先生達を信頼していることが見て取れた。また、昨年度に課題として挙げていた項目が改善されていて、素晴らしいと感じた。来年度も期待したい。
- ・担任の先生方の話から、日々の保育の中で、子供たちのために多くのことを考え、個々への成長を促していることを知り、大変勉強になった。ありがたいと感じる。この会だけでなく、保護者の皆さんにも、ぜひ共有してほしい。
- ・園全体で行事を大切にしていることが伝わってきた。生活発表会を参観し、子供たちの頑張っている様子を見て感動した。

《来年度の取り組みについての御意見》

- ・少人数の園になっていくことを前向きに捉えて、生かそうと案を練っているところがとても良いと感じた。子供が少ないのは、今の園児が幼稚園を出てからも一緒だと思う。少ないなりに関わり合って、相手を大切にする気持ちをもつ人に育ってほしい。
- ・自分で考え、自分で解決する力はこれから生きていく上でとても大事だと思う。すぐに解決できなくても、繰り返し挑戦していく力をつけてほしい。
- ・同学年でも発達の違いがあるために、保護者としても個々に適した対応はありがたい。

8 次年度の園経営についての取り組み

第2回 夢をはぐくむ園づくり推進協議会や園評価を踏まえ、具体については、概ね本紙の6に示した通りとする。また、引き続き継続して体験を重視した教育活動を推進し、保護者と連携して個々の子供の発達に寄り添いながら、質の高い教育を推進していきたいと考える。